

令和6年度 京都府立山城高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
①自主・自立の精神を高め、強い意志を持って自らの進路を切り拓き、より良き社会の実現に向けて行動する主体的人物を育成する。	①大多数の生徒は、学習はもとより学校行事、部活動等に意欲的に取り組んでおり、特にコロナ後、学校行事の活性化を図ることができた。一方、欠席過多の生徒に対し、学校を軸とした基本的生活習慣を確立させていくことの重要性が高まっている。	①基本的な生活習慣や規律ある学校生活を確立させた上で、自己肯定感を高める自発的・主体的活動や社会的視野を広める取組等を授業・学校行事等とおして推進する。また一人一人の生徒を大切に、学校を欠席がちとなる生徒に対しては、教職員間及び保護者と速やかに連携して支援に当たる。
	②生徒が自らの進路を考える機会を設定するとともに、学力向上に向けた様々な取組を進めており、前年度は過去最高の進学実績を残すなど大きな成果を収めている。今後も生徒に高い目標を持たせ、進路実現に向けて最後まで粘り強く取り組む学習集団を形成していくことが大切である。	②生徒が自分を社会の一員として俯瞰的に捉え、自立的・主体的な自らの生き方を展望することにより、高校生活や卒業後の自分の姿を描く機会の充実を図る。また生徒が切磋琢磨しつつ、互いに支え合い認め合う集団作りを行い、自身の学力向上、希望進路の実現に向けて取り組む。
②学習活動と部活動・学校行事等の双方に、生徒が高い目標を設定して主体的に励むことで、誇りと品格を持つ人間として成長を遂げる、質の高い文武両道を推進する。	③部活動加入率は非常に高く、多くの生徒が質の高い文武両道を目指して活動し、文化祭等の学校行事にもエネルギーを持って取り組んでいる。今後もこの学校文化を継承・発展させていく。	③部活動指導指針をもとに、質の高い文武両道の推進に向けて、教職員間での必要な情報や意識の共有を図る。また文武両面において、効果的な指導方法の研究及び環境の改善を進め、生徒の活動の活性化を図る。
	④家庭学習時間調査等により、学習と部活動の両立を図っていく取組を行い、多くの生徒が学習時間確保に努めた。一方で、計画的、自主的な学習に課題のある生徒がいることや、学習した内容を活用していく場面を設定することに課題がある。	④質の高い文武両道の推進に向けて、日々の授業を大切に、生徒が高い目標を持ち、学習意欲を高め、自ら学ぶことにより、確かな学力を備え、希望進路の実現につなげるよう導く。また、ワールドワイドパイオニア育成プロジェクトの推進を図るとともに、グローバルネットワーク京都に係る事業等、指定研究や外部事業を効果的に活用する。
③教育のプロとして専門性を高めるとともに、授業方法を検証・改善し、質の高い授業を展開する。	⑤ICTの効果的な活用の研究を行い、授業効果を上げることができた。また随時研修会を実施し、より効果的な活用方法について教員間での共有を進めた。すべての教員のICT活用指導力をさらに高めること、また、指導と評価の一体化による授業改善及び評価の在り方については、継続的な研究と取組が必要である。	⑤学習指導要領の趣旨に基づき、指導と評価の在り方及び教育課程について検証を行い、改善に向けて取り組む。また引き続き、授業デザインチームを中心に、ICTの活用などの指導方法について、教科を越えて教員が情報を共有、協議する枠組みを推進するとともに、外部機関との連携による取組を推進する。
	⑥働き方改革を意識して業務の質を高め、ICTを活用するなど、効率化の方策をさらに進めていく必要がある。	⑥教職員の教育活動の充実につながるよう、常に改善の視点を持ち、効率化、簡素化できる業務の見直しを図る。

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価	成果と課題
組織・運営	業務の的確な実施・検証	効率化、簡素化できる業務の見直し	1	B	自動採点ソフトを導入したが更に効率化を図る必要がある
教育課程	本年度学校経営の重点⑤	完成年度となる教育課程及び評価の在り方についての検証と改善	2	B	観点別評価については引き続き検証が必要
学習指導	同重点④⑤	生徒の主体的な学習を促すとともに、知識・技術のみならず、思考力・判断力・表現力や、協働しての課題解決力を高める授業や指導の実践	3	B	端末の活用は定着しつつあるが授業内容については更に工夫を進めていくことが必要
		一人一台端末を活用した効果的な授業の研究・実践	4	B	
文理総合科教育	同重点④⑤	英語運用力・探究力の伸長と効果検証	5	A	英語運用力の伸長や学年を超えた連携には成果があるが探究力の更なる伸長を図りたい
		専門学科の特性を活かし、学年を越えての連携を深める取組を実施	6	A	
進路指導・キャリア教育	同重点①②④	キャリアパスポートの活用と、社会と自己を結びつけた主体的進路選択とその実現を図る指導の充実	7	B	キャリアパスポートの活用に課題がある
特別活動	同重点①②③	部活動、学校行事、生徒会活動等における生徒の主体的な活動の促進	8	A	活発に活動ができたが更なる主体性が望まれる
生徒指導	同重点①②	基本的生活習慣の定着、よりよい集団づくりのための指導を推進	9	B	大多数の生徒は基本的生活習慣が定着している
国際理解教育	同重点②④	ワールドワイドパイオニア育成プロジェクトの充実	10	A	姉妹校との交流、台湾研修旅行等活発に実施できた
外部連携	同重点②④	高大連携事業のさらなる充実と外部人材の積極的活用の推進	11	A	普通科の取組の充実に工夫が必要
人権教育 特別支援教育 聴覚障害教育	生徒の人権意識の向上、特別な支援の必要な聴覚障害教育等の継続的实施	様々な困難がある生徒の社会的自立を支援し、進路保障の取組を推進	12	B	人権学習や聴覚障害教育アッセンブリーを通して障害に対する理解促進と人権意識の向上は進んでいる
		全校生徒への聴覚障害の理解促進や人権意識の高揚を図る学習活動の充実	13	A	
健康・安心・安全	生徒の健康・安全の確保に向けて、指導・整備の更なる充実を図る	自転車事故防止に向けた指導及び SNS や薬物に関する意識啓発の強化	14	B	Teams による欠席連絡の定着と日々入力により欠席過多生徒の把握がしやすくなった
		欠席過多生徒の迅速な把握と連携、各種検査・検診等の効果的な活用	15	A	

学校関係者 評価委員会 による評価	ワールドワイドパイオニア育成プロジェクトの取組を積極的に進められたことは評価に値する。来年度はドイツとの姉妹校交流 20 周年にあたるなど、グローバル化の取組については今後一層の充実を期待する。府立高校のおかれた厳しい現状に対しては今後の在り方を検討していく必要がある。
-------------------------	---

次年度に向けた 改善の方向性	スクールポリシーに基づいて教育活動を進めているが、必要に応じてスクールポリシーの見直しを行うなど柔軟に対応していくこと考慮しつつ改善を図る。
-------------------	--